

1. 教育の責任

情報系知識に対する感覚を養う事を意識した上で、専門性を高める内容を目指している。

【今年度担当科目】

【春学期】

「情報活用 I」「情報システム論 III」「データ構造とアルゴリズム」「ネットワーク技術」「学びのみちしるべ C」「情報実践特講 I」
「卒業研究」

【秋学期】

「情報活用 II」「データ構造とアルゴリズム」「情報倫理（国際看護学部）」「学びのみちしるべ D」「情報実践特講 II」「卒業研究」

2. 教育の理念

情報系は特にカタナカ用語や略称（例：SaaS 等）が多く用いられる分野であると考え。そのため、知らない用語に遭遇した時はしっかり調べて理解するといった勉学への態度が重要であるとの観点から、学修者の用語・内容への理解度をはかることを目的に、アウトプットを意識した教育を行っている。具体的には、文章で説明を記述させるといった方法をとっている。その上で、様々な学修の手助けとなる教材等の提供を心がけ、自ら学ぶ姿勢を尊重した学修機会を設けている。

3. 教育の方法

PC やスマートフォンを活用した学修機会を心がけている。

（1）授業資料の配布

全ての授業において、PDF 化した資料配布を LMS (el-Campus) で提供している。欠席者も資料閲覧により学修可能とする配慮のみではなく、授業資料やノートといったものの管理方法についても学生には考えさせている。あわせて、課題の内容・提出期限などについてもわかりやすくまとめた資料を添付している。また、資源節約の観点から配布をしないという説明をする事により、省資源化についても考えるきっかけとしている。適した教科書の無い一部の授業については、可能な限り自作資料を使用し配布している。

（2）授業時と授業後における学修成果達成のための工夫

授業時間内にただ聞いただけにならないよう授業中に取り組む課題を複数与え、しっかり聞いた上で取り組むよう指導している。授業時間外の課題では、授業時のふりかえりを踏まえた上で学修の発展に繋がる課題を出している。課題は身近な対象をテーマとしている事が多く、学生に対して日常における問題を意識してもらうよう心がけている。

（3）受講時のメモについての指導

PC 必携化に伴い授業中に PC を利用している学生が増えたが、資料閲覧や検索等以外に活用しているように思えない。そのため、PC でメモを取るよう指導している。ただ、Microsoft Word やメモ帳といったアプリでメモをとってもそのファイル管理がきちんとできていなければ意味が無いため、それに適したツール類を紹介している。（OneNote、Notion 等）成果のほどは不明だが、学生のメモをとり管理する能力の向上を目指している。

4. 教育の成果

学生の身近なもので例える事を意識しており、それが学生の理解に寄与していると考えている。また、大学内の組織や情報システムの具体的な問題点などを話したり考えてもらう事については、学生にはおおむね好評だった。

PC 演習系の授業では情報デザインに重きを置いた内容を新規に加えたが、別の授業を担当する教員から学生の資料作成レベルの向上を感じられるという評価も頂いた。

ただし、一方通行にならないよう授業内の課題を設定しているが、伝えるべき内容が多い時などは一方通行になっているなど感じる時が

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：現代社会学部 名前：中崎 修一 作成日：2026年3月3日

ある。また、学生とのコミュニケーションをもっと円滑に行わなければいけないという点が、反省点として挙げられる。

5. 改善への努力と今後の目標

受講者が多い授業への対応については、インタラクティブな要素を増やす必要があると常々考えてはいるが、難しいと感じている。それと併せて、学修成果の差を埋める手段として資料の拡充や個別学習に対応できる動画教材の整備等も有効であると考えており、その準備と作成に注力していきたい。

また、現在の学生の価値感に合う情報基礎教材の作成を進めていきたい。

【添付資料】

自作教材の科目（科目名を挙げるに留める）

「情報活用 I」「データ構造とアルゴリズム」「ネットワーク技術」「情報倫理（国際看護学部）」